



長野県看護大学学報



阿部 長野県知事、来校！

令和3年7月6日（火）に阿部守一知事が「しあわせ信州移動知事室」の一環で本学に来られ、午後5時45分から約1時間、1年生から4年生までの学部生5名と大学院生1名、そして、卒業生2名らと意見交換をする場が設けられました。

テーマは「将来の夢、看護職としての貢献」です。北山 秋雄学長、坂田 憲昭学部長、安田 貴恵子研究科長らも同席し、和やかな雰囲気の中活発に発言がなされ、知事からは看護職に対する大きな期待を寄せる言葉が述べられました。



しあわせ信州

将来の夢、看護職としての貢献

意見交換では、学部生からは、過疎地域での看護、死産を経験された方へのケア、在宅療養者とその家族への看護、助産師や保健師への夢などが語られました。卒業生からは、精神科病院での看護や、市町村保健師の活動を踏まえた多彩な関心ごとや意見が述べられました。



ひとりひとりがいま考えていることを率直に知事に投げかけ、知事からも一人ずつに返答されました。阿部知事からは、医療関係者への感謝の気持ちが何度も述べられ「この1年半、多くの看護職の方にお会いしました。みな自立していて責任感があり、与えられた以上の仕事をしていました」とねぎらいの言葉がありました。また「孤独に苛まれることもあるかもしれないが、ともにまちづくりに貢献してほしい」と話され、知事がかねてから関心を寄せている「社会的共通資本」(宇沢弘文)の話題になり「医療は市場論理に委ねてはいけな分野」と語られ、最後に「里山看護」にも言及され「北山学長、これから一緒に研究しましょう!」と述べられました。



卒業生 ころの医療センター駒ヶ根
竹村 かおるさん



卒業生 駒ヶ根市教育委員会 こども課
木下 真唯さん



看護学部3年生
今村 佳奈子さん



大学院看護学研究科博士前期課程1年生
佐々木 賢太郎さん

目指す姿

私の夢は、長野県の過疎地域で、子どもを産み育てやすい環境を整えることができる助産師になることです。医療施設や専門職者の少ない過疎地域では、女性やその家族が子どもを産んで育てるという選択をしにくくなっています。そのような中でも、小さな不安でも気軽に相談できる専門職者が身近な地域にいれば、今よりも子どもを産み育てやすい環境になると考えます。どんな地域でもお母さんやその家族が安心して出産や育児が出来るように助産師として寄り添えるようになりたいです。その為にも、日々の学びを大切にして、一日一日向上心を持って学習し続けて行きたいです。



看護学部1年生
竹下 和花さん



看護学部3年生
大前 佑佳さん

私の夢

私の夢は、病院以外の場所でも患者さんや家族の方が安心して暮らせるようにサポートできる看護師になることです。このような夢を持ったきっかけは、祖父の自宅での療養でした。自宅での療養は祖父が住み慣れた場所に帰れて、わたしたち家族と一緒に暮らしていけるという嬉しい思いがありました。その反面、医師や看護師がそばにいないため、家族への負担が多く、さらにはもしものときに対する不安がありました。この経験から、病院以外の場所でも看護を必要としているひとがいるということを知り、患者さんや家族がどのような場所においてもサポートできるような看護師になりたいという夢をもちました。

今後の展望

私は、地元の地域周産期母子医療センターの一員として地域での健やかな生活の実現に向けて助産師として母子・家族を支援していきたいと考えています。高校生の時に、産婦人科医師の不足に伴う分娩施設の集約化の現状を知り、そのような環境下で暮らす母子・家族を支えていきたいと強く思うようになったからです。1組1組の母子・家族と丁寧に向き合い、母子・家族が地域に戻っても安心して生活していけるように支援をしたいです。家族が自分たちの力で課題に対処していけるように退院後の生活を見据えた切れ目ない支援が必要だと考えているので、何がその方にとって必要な支援になるのかを、身体的・心理的・社会的側面から予防的な視点を持ちながら関わって行きたいです。



看護学部4年生
倉田 七美さん

将来の夢

私は、将来、行政保健師になりたいと考えています。私の母が弟の成長の中で不安を抱えていた時に、保健師さんが話を聞き、専門機関に繋げてくださったことで、安心して生活できるようになったことが行政保健師を目指すようになったきっかけです。行政保健師になって取り組みたいこととして特に関心が高いのは、子育て支援です。現在、少子化や核家族化などにより子育てをしている人が孤立しやすい状況にあると思います。

その中で、子育てをしている人同士の関わりを大切に、同じような状況にある住民同士が支え合えるようにすることで、お子さんの成長を感じながら安心して子育てができるような支援ができる保健師を目指したいと思います。



看護学部4年生
三村田 りおさん

学長コーナー

長年にわたって本学の発展に尽力されてきた北山秋雄学長が今年度で退任されます。在任中、北山学長はつねに<看護のもつ潜在的な可能性>に言及されていました。日本の風土・土地柄が育む看護について研究を進められ、それが「里山看護」という考え方に結実しました。欧米由来ではない看護、目には見えないものにも心を寄せる看護について、今回の小論からも先生の学問的な足跡の一部をうかがい知ることができます。



里山看護学と禅と「やまと」文化と金子みすゞ

2006年4月 長野県看護大学大学院博士前期課程に「健康資源開発看護学領域里山看護学分野」が創設されました*¹。さしずめ、里山(へき地、島嶼等)とは「人々が自然と共存するために創出した二次的自然空間」と言えましょう。

この里山の暮らしを通して、私たち日本人は自然と向き合い、原初以来、生き方や価値観、文化や宗教を醸成し脈々と伝承して参りました。元来、私たち日本人にとって自然は畏敬の対象であり、必ずしも対峙したり克服したりすべき対象ではありません。自然は時に過酷であり残酷ですが、豊穡と安息(やすらぎ)をもたらします。

里山看護学は里山で育まれた(食)文化や伝統・慣習(冠婚葬祭)、共同意識や共感などを健康資源として学際的なアプローチを通して再構築再定義する学問領域です。最近、漸く「日本学術会議 健康・生活委員会看護学分会」は、全国一律一律な「地方創生」施策では地方の個別多様な健康課題の解決が困難であることから、多職種多領域と協働する新たな学術分野として「地元創成看護学」の必要性を提言しています。

現在、私たちは世界史のいち大転換点に立っています。18世紀から19世紀にかけてヨーロッパと米国で始まった第一次産業革命を皮切りに、今日第四次産業革命が進行しています。こうした産業革命では新しい技術が登場・普及するだけでなく、産業構造や社会構造、人々の人生観価値観等に大きな変革・変化がもたらされてきました。特に、人々の精神や価値観のあり様は社会構造や産業構造の根底をなすものです。

近代の産業はルネ・デカルトの「我思う、ゆえに我あり」に代表される合理的・論理的思考に基づいて発展して参りました。一方で、古来東洋人、特に日本人の心性に通底している思考は「我は我ならず、ゆえに我なり」という、意識、理屈や分別、論理以前の(超越した)無意識、未分別、直理直観をして真理本質に至る物の見方です。禅宗学者鈴木大拙によれば*²、このような思考の代表例のひとつが金剛経第十三節の「仏説般若波羅蜜、即非般若波羅蜜、是名般若波羅蜜」であり、般若系思想の根幹をなす思考であり禅の思考であると述べています。

言い換えれば、「私は私でない、だから、私は私である」です。般若系思想、すなわち禅宗では、「不立文字」と言われるように文字や言葉による伝達以上に、体験によって得られるものこそ真髄本質であるとされています。すなわち、文字や言葉、意識、観念概念は意味をなさず、否定してのちに肯定することで初めて物事の真理本質(悟り)に至ると考えられています。現に目に見えるもの、文字や言葉では何物も完全には把握出来ない、ましてや自然科学や現象学的手法でさえ物事の実態本質を必ずしも十全に理解出来ないこと、人間の認識には限界があることを示唆しています。

日本古来の「やまと」文化は「おかげさま」の言葉に代表される文化であり、今でも私たち日本人はしばしば「おかげさまで、元気に暮らしています」などとあいさつを交わします。この「おかげさま」は「人間は何かを支えられて暮らしており、決して自分だけの力で生きているのではない」ことを示唆しています。

同様の言葉に「自ず(おのず)から」があります。「自ずから」は「みずから」とも読みます。「お茶が入りました」「ご飯の用意が出来ました」「子どもが授かりました」のように、あたかもひとりでお茶が入ったりご飯の用意が出来たり子どもが授かったような物言いをします。こうした「おのずから」「何か」の働きを本居宣長は「神々の働き」と形容しました。私たちの日常の出来事は「主体的判断による行動で解決できるものと自分ではどうにもならない「自然の働き」「何か」によって成り立っている」と深層理解・共感することが、自らを戒め、自然を畏敬し、足るを知ること、すなわち人間の限界を知り欲望を制御すること(謙虚であること)に役立つものと思います。

こうした「神々の働き」「自然の働き」「何か」を感得し見事に詠んだ詩人が金子みすずです。里山看護学と禅と「やまと」文化と金子みすずの詩に通底する思想は、いのち(宇宙なるもの)に対するまなざしと畏敬の念です。結びに、金子みすずの詩を紹介して擲筆します。

星とたんぽぽ

青いお空の底ふかく、
海の小石のそのように、
夜がくるまで沈んでる、
昼のお星は眼にみえぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。

散ってすがれたたんぽぽの、
瓦のすきに、だァまって、
春のくるまでかくれてる、
つよいその根は眼にみえぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。



* 1 創設に至る経緯は、「長野県看護大学学報No25(平成20年2月号)をご参照下さい。

* 2 鈴木大拙：般若経の哲学と宗教、法蔵館、1945。

》キャリアガイダンスⅡ

Career guidance Ⅱ

8月6日に行われたキャリアガイダンスⅡは2年生が対象で、卒業生から「在学中の学習活動、就職活動、現在の仕事への取り組み」について聞き、「学生が自身の将来について考え、進路意識を高める」ことが目的です。臨床現場の第一線で活躍されている昭和伊南総合病院看護師の森和裕さん、松本児童相談所保健師の和田英子さん、伊那中央病院助産師の田村萌恵奈さんが、学生時代から新人時代のできごとや、現在取り組んでいることを生き生きと話してくださいました。学生の皆さんが、自分の将来を思い描くきっかけになってくれたら嬉しいです。

成人看護学分野 講師 江頭 有夏



卒業生からのメッセージ

病棟で働いていると、看護大学の実習生の皆さんの頑張っている姿をよく見かけます。実習中は本当に大変だと思いますが、学生のうちに患者様と関わることができる貴重な機会だと思ってぜひ実習の時間を大切にしてもらえたらと思います。日々の学業においても、今振り返ると勉強に集中できる貴重な時間だったと痛感します。辛いこともたくさんあると思いますが、学生生活を十分楽しみながら、夢に向かって頑張ってください！

昭和伊南病院 森 和裕さん



この度は助産師として、実習や就職活動、新人助産師の仕事の様子についてお話をさせていただきました。今回のガイダンスでのキーワードは「自己分析」です。これは自分に合った環境で自分らしさを持ちながら看護を展開するという点でとても重要になると思います。そして自己分析を徹底的に行えるのが実習です。様々な領域で色々な患者さんやスタッフと関わる中で自己分析を深め、自分らしさを強みに変えて保健師、助産師、看護師として働けることを願っています。

伊那中央病院 田村 萌恵奈さん



2年生の感想

昨年、8月6日に卒業した先輩方から卒業後のキャリアについてのお話を聞く機会がありました。今までの私は看護師になることが目標であり、最終的には国家試験に合格する所までしか考えられていませんでした。ですが、先輩方のお話を聞いてから、看護職に就いた後もキャリアアップの機会が様々あり、またその分野も様々あることを知りました。自分自身がどんな看護師になりたいか、どの分野に特化した看護師になりたいかを考える良い機会になり、とても勉強になったと思います。

看護学部2年生 岸和田 真杜さん

現役の看護師、保健師、助産師の先輩方をお招きし、実際の職務内容や実習での体験についてお話を聞くことができました。私は将来、保健師になりたいと考えているため、保健師の方のお話は自分の将来についてより深く考える機会となりました。今までは市町村の保健師にしか興味を持っていませんでしたが、県の保健師の魅力や、保健分野だけでなく児童相談所といった福祉分野で活躍する保健師もいることを知り、様々な分野での活動に強く興味を惹かれ、将来の選択肢を増やすことができました。

看護学部2年生 倉島 花音さん



Kandaigram 2021.7～2021.12



8/11 演習の様子
(急性期看護方法)



8/27 にっぽんど真ん中祭り敢闘賞受賞
(よさこいサークル鼓魂)



9/6演習の様子
(助産方法II)



11/12 防災訓練



11/18 動物慰霊祭



11/21
上穂町区5町内「秋の一斉清掃」



12/6 生協学生委員会のクリスマス企画



12/15 同窓会からの図書の寄贈

新任教職員の紹介

10月に着任いたしました。修士課程では成人看護学分野専攻でしたが、ご縁があり、今は精神看護に関わっております。皆さまと人と関わることの楽しさと難しさを学び合ってまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



精神看護学分野 助教 大曾根 由季

また、8月6日に、感染管理認定看護師教育課程の事務補助員として、川田さゆりさんが着任されました。

学内の行事

新型コロナワクチン職域別接種

信州大学の主導の下、信州大学農学部を会場とし共同開催という形で新型コロナワクチン職域別接種が行われました。令和3年7月25日に1回目、8月22日に2回目の接種が行われ、本学は学生と教職員の計189名が対象となりました。当日は、大学バスや観光バスを借り上げて送迎を行い、接種しやすい環境を整えました。100%近い人が接種を終え、重篤な副反応もみられませんでした。また、当日は延べ48名の教職員がワクチン接種や経過観察の任務を行いました。

基礎看護学分野 教授 望月 経子



ハラスメント防止研修会

2021年8月26日～10月20日の2か月間にわたり、学部・大学院生、教職員を対象とした「大学におけるハラスメント防止」研修会を開催しました。内容は、大学におけるハラスメント問題の特徴、ハラスメントの定義（パワハラ防止指針；2020年6月策定）に基づいた実例の紹介で構成されていました。eラーニングでの開催は初めての試みでしたが、延べ98名の受講がありました。アンケート回収数は58名（学部・大学院生：9名15.5%、教職員：49名84.5%）で、eラーニング内容の満足度は8割弱、ハラスメント防止において参考になるとの回答は8割以上を占めていました。今後の研修会の開催方法の1つとしてeラーニングの導入の検討および、学部・大学院生にはハラスメント防止に関心を向けてもらえるような研修会の内容を工夫していきたいと思えます。

老年看護学分野 講師 曾根 千賀子

生協学生委員会 七夕企画

先日、生協学生委員会が主催して七夕企画と称しまして、食堂に笹を設置し、学生の皆さんに短冊にお願いごとを書いてもらい、飾り付けをしてもらいました。人が来てくれるか不安でしたが、準備していた短冊の数が足りなくなるくらい多くの方が短冊に願い事を書いて飾ってくれていて、笹も素敵なものになっていました。生協を盛り上げるためにも、今後もこのような活動を続けていきたいです。

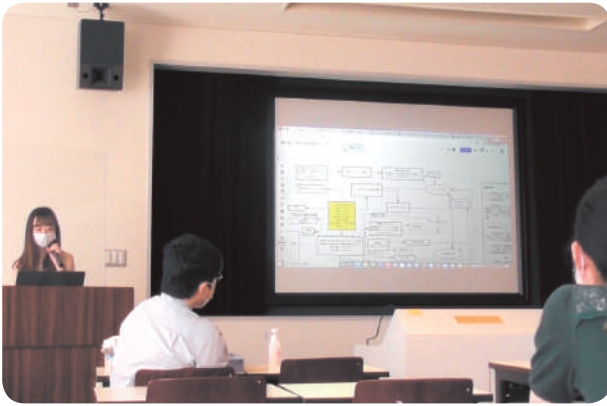
生協学生委員長（看護学部2年生） 上條 夢来さん



毎年、生協学生委員会で食堂ホールに七夕の笹飾りを用意してくれます。オンライン授業で登校の機会が減り、立ち寄る学生も少なくなって少し寂しい生協でしたが、七夕の飾りで雰囲気も明るくなりました。大勢の皆さんが願い事を書いてくれ、賑やかな笹飾りができました。夢のある願い事を見て、私達スタッフも思わず笑顔になりました。これからも学生委員会と一緒により身近に感じられ、楽しく利用できるお店を目指したいと思えます。

長野県看護大学生協 林 裕子さん

教務・実習委員会研修会 テーマ:ハイブリッド方式で「双方向授業」をやろう!



授業の様子(急性期看護方法)

成人看護学分野が取り組んだ「双方向授業」とは、講義形式の一方方向授業ではなく、学生と教師が対話しながら、また学生同士が対話し、共同作業をしながら課題を達成していく「アクティブラーニング(能動的学習)」の実践でした。コロナ禍のハイブリッド方式授業でも、ICTを活用すればそのことは可能になります。大切なのは、<我々はどんな授業をしたいのか、何を学生に身につけてもらいたいのか>の教育の“願い”と“ねらい”を明確にして、授業をデザインすることです。

成人看護学分野 教授 柳原 清子

教務・実習委員会FD研修/看護ユニフィケーション相互研修

9月2日(木)池西静江先生により「臨地実習経験の乏しい学生の学びを促進する実習場面の教材化」をテーマに研修会を開催しました。看護ユニフィケーション提携施設など8施設・学内教員を合わせ74名という多くの方々にご参加いただきました。池西先生には、臨地実習経験の乏しい学生の学びの活用方法を中心に具体的事例を用いてご講義いただきました。参加者からは「日々の指導に取り入れられる」など高評価を得ました。

看護管理学・看護教育学分野 講師 井本 英津子

卒業生集まれ企画

コロナ禍の影響を受け、今年度もオンライン開催となりました。9月4日に、参加12名の卒業生が教員を交えた小グループに分かれ、近況や思うことなどを報告し情報交換をしました。臨地実習が十分にできなかった学年でしたが、各々が卒後半年間の成長の姿を見せてくれました。時間はあっという間に過ぎ、最後にZoom越しの記念撮影をして閉会しました。終了後アンケートでは、集まりたかったという声も多く、対面の大切さを再認識する場でもありました。



老年看護学分野 准教授 千葉 真弓

カリキュラムに関する研修会

本年度のFD・SD研修会は、令和4年度の入学生から適用される本学カリキュラムの改正内容をテーマとし、9月9日(木)にオンラインで開催しました。研修会では、カリキュラム改正の背景や改正点(主に基礎看護学・保健師教育・助産師教育に関する改正内容)について説明があり、本学カリキュラムの理解を深め改正内容の情報共有の機会となりました。他分野の講義・演習の内容を知る機会にもなったことから、各分野の行っている教育内容・方法の工夫を学びあう研修会の企画についての要望もあがりました。

地域・在宅看護学分野 講師 小野塚 元子



INFORMATION



「北山秋雄学長退任記念講演」 動画配信のお知らせ

3月10日(木)に開催される退任講演を録画した動画を、期間限定で一般配信いたします！
今号の「学長コーナー」に寄稿された＜里山看護学と禅と「やまと」文化と金子みすゞ＞をさらに詳しくお話ししていただく予定です。詳細は本学ホームページをご覧ください。

健康・保健学分野

第18回 長野県看護大学研究集会

日時 2022年3月18日(金) 9:00～15:00

開催方法 Zoomによる配信

参加無料



プログラム

講演 【看護の現場ですぐに役立つ】PTによる早期離床の考え方

講師：上 條 明 生

長野県看護大学基礎医学疾病学分野 助教・理学療法士

研究発表

- 看護職者の院内研究
- 産学官連携関係者による研究
- 県内看護職者と本学教員との共同研究
- 本学教員による研究
- 長野県看護大学看護実践国際研究センター活動報告

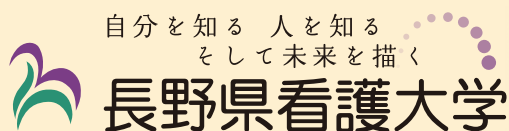


交流会

参加者同士の交流会

「院内看護研究・事例検討の取り組みの現状と
課題について情報交換しよう」

FD・SD委員会



〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂1694 TEL 0265-81-5100 <https://www.nagano-nurs.ac.jp/>

長野県看護大学学報
No. 53 (令和4年2月)

編集・発行
長野県看護大学 広報・交流委員会